

中百舌鳥駅周辺活性化基本方針

- 多様なひとの交流と活動が生まれる中百舌鳥エリア -

【概要版】

令和6年5月 堺市

III 活性化のコンセプトと取組の方針

1. 中百舌鳥駅周辺エリアの活性化のコンセプト

【コンセプト】

交流・活動が生まれるひと中心のエリアを形成

—新たな価値に出会える駅まち空間—
生活×イノベーション

【エリアの活性化に向けて】

- エリア内でひとが魅力と価値を感じ、交流・活動が繰り広げられることが重要です。
- そのためには、駅・駅前広場・周辺市街地を一体的に捉えて都市機能強化や空間活用を図る「駅まち空間」として魅力を高め、ひとが交流・活動しやすいよう、下記の3つのひと中心とした視点で、取組の方針を示し具体的な施策を実施します。

【活性化の視点】

多様なひとが交流・活動できる空間をつくる

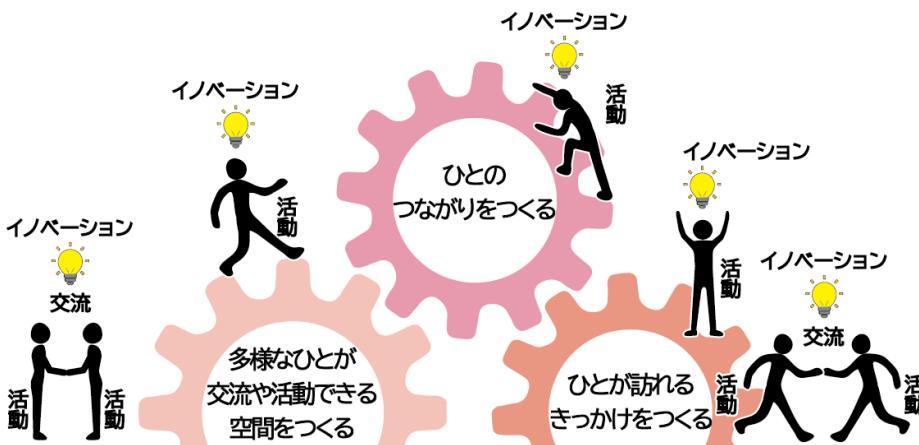
駅前広場エリアや北部エリアが一体的なエリア「駅まち空間」として形成され、エリア内に多様なひとの交流・活動の場が充実している。

ひとが訪れるきっかけをつくる

様々な価値観やライフスタイルに見合った建物や空間のアップデートを繰り返し、最先端の場として多様な機能をエリア内に備えることで、ひとの交流や活動が促進される。

ひとのつながりをつくる

多様なひとの出会いや挑戦をサポートすることで、様々な交流や活動が積み重なる。



2. 中百舌鳥駅周辺エリアの取組の方針と主な施策

方針① ひと中心の空間を創出

①-1 新たな交流・活動を生む空間

- ◆ 駅前広場エリアの交通利用形態を最適化しつつ駅前広場機能の再配分を行い、ひと中心に再編
- ◆ 北部エリアの既存機能の再配分により、低未利用地等を利活用しやすい土地利用に再編

①-2 安全快適で歩きたくなるひと中心の空間

- ◆ 誰もが使いやすい空間整備を行い、エリア内の歩行者ネットワークを形成
- ◆ シェアサイクル・次世代モビリティ等の活用によるエリアへのアクセス性の向上
- ◆ 駅前広場エリアの歩行者空間の整備と利用状況に応じた駐輪場の再配置を検討



交通利用形態の最適化等の駅前広場機能の再配分

方針② 都市機能更新の推進

②-1 新しいことに出会い、ワークとライフを支える拠点形成

- ◆ 駅前広場エリアにおいて、民間活力を導入した商業・業務・多様なひとが交流する機能等があり、乗継改善にも資する施設を整備し、ひとの活動の中心となる場を創出
- ◆ 北部エリアにおいて、民間活力を導入した公園の再配置や調整池等の低未利用地の高度利用化、既存施設の有効活用による都市機能を更新
- ◆ 駅前広場エリアと北部エリア間の低未利用地や既存ストック等を有効活用し、商業・飲食店等の充実による1階レベルでの活力の拡大や新たな機能の導入によるエリア内を多機能化

②-2 民間投資の促進による都市機能誘導

- ◆ 容積率の緩和や駅前広場の上空利用等、各種制度の柔軟な活用による民間投資を促進

②-3 エリアの一体性の形成

- ◆ 駅前広場や道路空間等の公共空間と民間空地のデザインに統一感を持たせる等、良好な通り景観を形成
- ◆ 拠点整備における統一感のある空間形成により、エリアの一体性を創出



民間活力を導入した多様なひとが交流する施設整備

方針③ イノベーションにつながる交流・活動の促進

③-1 多様な主体での連携・共創により、イノベーションを多層化

- ◆ 次代のイノベーション創出を担う若い方が課題解決や新しい価値観、起業を知り学ぶ機会を提供することによるアンテプレナーシップマインドの醸成
- ◆ 市内外の起業家・事業者・研究者・学生、支援者や行政等の多様なひとの交流、知識・技術・社会課題等の情報・知見の会得から新しい価値を生むアイデアや共創の多産を促進し、新しい取組を多層化する環境の形成
- ◆ 産学官や先輩起業家が協力、連携したサポート体制の構築や実証の機会の提供等により、事業が社会実装されるまでのサポートを実施
- ◆ 大阪公立大学の高度な研究シーズや起業家精神が醸成された学生の強みを生かし、社会課題解決のためのプロジェクトを創出、総合知を活かした社会実装を推進

③-2 中百舌鳥発のイノベーションの輪の拡大

- ◆ PRの強化と地域を超えたサポート体制の構築により、イノベーション創出拠点で生まれた事業を市外・全国に展開



サポート体制の構築や実証の機会の提供

方針④ 公民連携によるマネジメント体制の構築

④-1 多様な主体による活動の促進

- ◆ エリア内の事業者、エリア内で活動している方々、NICCC等の連携体制の構築による多様な主体の活動機会を創出

④-2 新しい手法の活用

- ◆ 分かりやすく新しい手法の活用による今までエリアに関わりがなかったひとの参画機会の創出

④-3 エリアの利活用や管理運営の仕組みの構築

- ◆ エリア内の事業者やエリア内で活動している方々等が共有できるガイドラインや協定等の作成による継続的な連携の創出
- ◆ 鉄道事業者と乗継改善に資する施設の事業者等が連携・協力できるルールを作成し、乗継利用者の利便性を高める管理運営の実施
- ◆ 柔軟な道路空間の利用による歩行者の利便性を高める沿道空間の形成

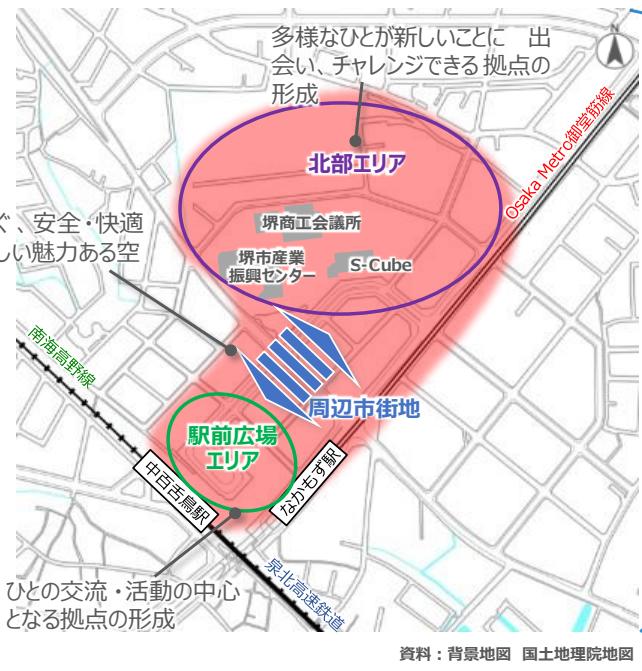


エリアマネジメント組織による空間の活力創出

III 活性化のコンセプトと取組の方針

3. 空間の将来像

エリア内の活性化を図る両輪として、「駅前広場エリア」と「北部エリア」のそれぞれにおいて拠点の形成を図り、更に「周辺市街地」での民間投資を誘発し、エリア一体で都市機能強化や空間活用を図ります。



IV 将来の絵姿



IV 将来の絵姿



北部エリア：都市機能を更新したイメージ



V 事業展開と推進方策

1. 事業展開

小規模な取組を社会の変化に対応しながら少しづつ段階的に育て、最終的に本格実施に移行するLQCアプローチ (LQC : Lighter, Quicker, Cheaper) により、エリアの滞在時間の拡大や交流・活動の増加を図る。

